

平成27年度第1回「墨田区子ども・子育て会議」、
「評価指標検証ワーキンググループ」議事要旨

日時：平成28年2月19日（水）午後6時30分～8時15分
会場：墨田区役所 123会議室

次 第

1 開会

2 議題

議 題	資料
(1) 評価指標検証ワーキンググループの目的等について	資料1
(2) 各検討課題について	資料2
(3) その他	

3 閉会

配布資料

資料1	「評価指標検証ワーキンググループ」の概要について
資料2	「評価指標検証ワーキンググループ」における主な検討課題について
参 考	発達に心配がある児童の保護者へのインタビュー調査：事前調査シート
参 考	高校生へのインタビュー調査：事前調査シート
参 考	墨田区子ども・子育て支援事業計画策定のためのインタビュー調査結果報告

出席者(敬称略)

委員

西島 由美（にしじま小児科院長）
森 八一（青少年育成委員会連絡協議会副会長）
熱田 美帆（公募）
小林 佳香（公募）
近藤 ゆき江（八広幼稚園長）
青塚 史子（八広保育園長）

< 欠席委員 >

木村 律子（公募）
佐藤 摩耶子（公募）
荘司 美幸（公募）
陳 晨（公募）
関 舞衣子（公募）

< 傍聴 >

なし

部課長出席者

小倉 孝弘 (子育て支援課長)

事務局出席者

田村・酒井

事務局 (株)地域総合計画研究所)

大鹿

2 議題

(1) 評価指標検証ワーキンググループの目的等について

委員	今回は発達に心配がある児童の保護者、高校生にヒアリングしたが、今回も行うのか。
事務局	前回にはこだわらない。今回は、少数派であり、深い背景があると思われる対象を探った。
委員	高校生への質問は、なぜこのようなことを聞いたのか。優等生の高校生に男女の役割について聞いて、計画に何を反映できるのか。私だったら、住みつづけたい、住み続けたくないという答えに対して「なぜか？」と聞きたい。 未就学児の間はいるのに、転出する人に、なぜ転出するのか聞いてみたい。基本的には墨田区が行っている施策がいいのかについて聞くのではないかと。 発達障害については、入学前よりは入学した後の保護者に聞いた方がよい。幼児期はまだ漠然とした不安だけで、小学校に上がってからが困るので、その経験者のほうが意味がある。就学相談で何が困ったか、支援学級に通って何が困ったのか、何が必要なのかなど。

(2) 各検討課題について

委員	必要なサンプル数はどのくらいか。
事務局	アンケートではないので、あまり数にこだわらなくてもいいかもしれない。
事務局 (地域研)	アンケートについては必要な数はある。全体の傾向は、アンケートで確認し、アンケート結果ではその理由が疑問であることに對して、補足的にヒアリングするので、ヒアリングで必要数というのではないと思う。
委員	高校生には、奨学金が必要かとかそういうことを聞くべき。 区の施策についてアンケートしたとき、何も知らないで回答する人もいると思うが、そういう人に実はこういうことをしているというような資料を提供しても面白いのではないかと。
委員	発達障害の子が学童を選ぶときに、ケアがある民間の学童を選ばなくてはいけなくなる。普通の学童だと親が送り迎えしなくてはならないので普通の学童に行かせられないという事例もある。
委員	保育園は障害児も一緒に通っていても、小学校に上がると普通の学童に入れられるのか迷う保護者がいた。学童だと障害児は送り迎えが必要ということになり、民間のサービスを利用している子がいる。

委員	発達障害は小学校に上がるときに、発達相談で普通学級に行くのか、支援学級に行くのかなどに悩んだりする。乳幼児の時期はまだ、漠然とした不安で、小学校に上がって実際に色々な経験をするので、その経験をした保護者に意見を聞いた方がよい。
委員	両国高校の人数はどのように決めたのか。
事務局	墨田区在住の高校生をお願いして、人数は学校にお任せした。
委員	数人の意見だけで墨田区の意見というのも難しい。
事務局	単位を5～10名としているので、必要数が25名ということであれば、最大5回実施する。園児は一人よりは、グループの方がいいのか。
委員	ひとりよりは集中しやすいと思う。クラスの他の子にもちゃんと聞いてあげないと、よばれなかった子が気になる。
委員	グループだとひとりの子の意見に影響されるので、1対1の方がいいかもしれない。慣れた大人がインタビューする。
委員	中学～大学生については、複数の学校から生徒を集めて、一同に会してインタビューした方がバランスのよい意見が取れる。
委員	墨田区内の学校だけでなく、区在住であれば区外に通う生徒でもいいのではないかな。
委員	中学校の先生に、卒業生で答えてくれそうな生徒を紹介してもらおうのはどうか。
事務局	委員さんがインタビュアーになるのはどうか。
委員	保育園、幼稚園などの幼児については、日ごろ接している先生をお願いするのがいい。
委員	墨田区のどんな公園が好きか、日曜日はだれと遊んでいるのか、など聞いてはどうか。
委員	小学生の保護者はどこで捕まえたらいいのか。
委員	小学校のPTAなどをお願いしてはどうか。 アンケート調査との連動をよく考えた方がよい。
事務局	タイミングとしては、アンケートを送付した頃に並行してインタビュー調査をすることになる。前回のアンケートと大きく変わらないので、前回の結果を見ていただいて、インタビューで何を聞きたいかを考えていただきたい。
委員	以前、大学の幼児教育の研究として大学の先生がインタビューしたことがあった。あたたかい雰囲気女性の先生で、1人ずつ入って、5問くらいの定型の質問をしていた。
委員	それは発達相談の質問ではないか。事実の質問は聞けるが、その子のニーズはそれでは掘り起こせないかもしれない。
委員	保育園でつくる卒園アルバムのアンケートは、将来の夢とか、好きな給食とか、好きな遊び場所など。年長になれば、みんなの前でも質問されたことについては答えられる。
委員	前回、発達に懸念がある子どもの保護者と、高校生とした理由はなにか。今回のこの「幼児・小学生」「中学生・高校生・大学生」「乳幼児や小学生を持つ保護者」は決まっているのか。
事務局	前回は、アンケートで把握できない対象ということでコンサルタントから提案があり対象とした。資料は、子ども・子育て会議会長から提案があった対象を記載しているが、これにこだわる必要はない。
委員	では、次回は「だれに」「何を」聞きたいのかについて決めたい。

次回開催予定

日時：平成28年3月24日(木)午後7時00分～8時00分

会場：区役所131会議室

以上